



不審者対応避難訓練 ～自分の身は自分で守ろう～

6月20日(水)、学校に不審者が侵入したという想定で、避難訓練を行いました。
今年度から、不審者が侵入した場合には、全児童を北校舎に避難させて防火扉等で遮断し、侵入者から完全に隔離して児童の安全を確保するように対策を変更しました。子どもたちは、整然と避難していました。
避難訓練の後は、福島警察署生活安全課の小泉さん、スクールサポーターの上野さんから、「いざ!」というときの対応の仕方を教えていただきました。

～スクールサポーター 上野さん～

できるだけ複数で登下校し、人通りの多い道を歩きましょう。

もしもの時は：すぐに助けを求めましょう。(コンビニ・家・歩いている大人・・・)

不審者との距離をときましょう。

逃げるときは、20Mの猛ダッシュをしましょう。

腕を捕まれたら、腕をぐるぐる回してはずしましょう。

～生活安全課 小泉さん～

きょうは、いかのおすし

子どもたちが知っている「いかのおすし」に「きょうは」が加わりました。

きよ：(不審者との)距離をとりましょう。ロケットダッシュして、離れましょう。

う：後ろにも気をつけましょう。(玄関を開けるときは、後ろに誰もいないことを確かめて)

は：早く帰る

SNSにも気をつけて

インターネットで知り合った人には、会わない。

自分の画像を送らない。



上野さんスクールサポーターの役割と法を学習しました。

～6月6日全校集会より 「心に限界はない」～

皆さん、パラリンピックを知っていますか。オリンピックは知っていますよね。パラリンピックというのは、体に障がいを持っている人たちが、その障がいを乗り越えスポーツを競う大会です。

今日は、「心に限界はない」というお話をします。

以前、リオデジャネイロパラリンピックが行われました。その開会式で会長のカルロス・ヌズマンさんは、「心に限界はない。見た目はちがっていても、同じ心を持った人たちです。全ての人に心がある。」といました。「心に限界はない」という言葉を頭に置きながら、このポスターを見てください。リオデジャネイロパラリンピックに出場した、水泳選手です。

ここに写っていた人たちは、皆さん何かしら障がいを持った人たちです。

腕の肘の先がない人も写っていました。この中には、全く目が見えない人もいます。どんな思いで水泳に立ち向かっているのでしょうか。ちょっと考えてみてください。

「肘から先がないから、水泳なんて泳げるはずがない」と思って、はじめから諦め、何もしないか。それとも、「肘から先がなくても、きっとできるはず。」と頑張って努力してみるか。そこには、大きな違いがあります。皆さんは、どちらを選びますか。

「心に限界はない」障がいを持った人たちが、泳ぐ姿を見て学んだお話でした。